

パルキッズ久留米大学は、イベントにも補助金を活用



### 学生や若者向けの申請枠も

市は「市民活動・絆づくり推進事業費補助金」で、団体が市民活動を行う経費の一部を補助して

住みやすい魅力的なまちをつくるには、団体や地域、行政などが支え合うことが必要です。市は活動の始め方の相談や経費の補助などを通して、市民の皆さんと協働でまちづくりを進めています。

動画公開



# まちづくりを若い世代と きっかけ作りから活動まで支援

住みやすい魅力的なまちをつくるには、団体や地域、行政などが支え合うことが必要です。市は活動の始め方の相談や経費の補助などを通して、市民の皆さんと協働でまちづくりを進めています。

### 地域に触れる入り口作り

今年度、市は、学生に自分が住むまちに関心を持ってもらうため、久留米大学と連携し、地域の

困り事にどう取り組むかをテーマに講義を企画しました。学生は課題を考え、グループで共有し、取り組み内容を発表。活動に参加したことがない学生も講義を受け、まちづくりを身近に感じることができたと話します。

活動をしたいが、取り組み方が分からない人が多くいます。市は、支援策情報をまとめた「市民活動お助けガイド」を作成。市民活動サポートセンターみんくるでは、活動の始め方やオンラインの活用までさまざまな相談に対応しています。市はこれからも、皆さんの活動を幅広く支援していきます。

④協働推進課 ☎0942・309064、FAX0942・309706

※1月24日時点で制作しています

## 住民税非課税世帯などへ臨時特別給付金 世帯当たり10万円を振り込み

久留米市は、新型コロナの影響が続く中、生活を支援するため、住民税非課税世帯などを対象に、世帯当たり10万円を支給します。給付開始時期などは、決まり次第、市ホームページなどでお知らせします。

### 家計が急変した世帯も対象

住民税非課税世帯などに1世帯当たり10万円を支給します。

#### ■対象

次の①②のいずれかの世帯です。

①令和3年12月10日時点で市内に住民登録があり、世帯全員の令和3年度分住民税が非課税の世帯。

②新型コロナの影響で、令和3年1月以降の収入が減少し、世帯全員の年間収入見込み額が、住民税非課税相当以下となる世帯。収入見込みは、世帯全員の令和3年1月以降の任意の1カ月の収入（給与や事業、不動産、年金）を

基に1年間分に換算した収入か所得で判定します。扶養人数によって非課税相当額が異なります。

①②ともに、住民税課税者から扶養されている人（学生など）のみで構成する世帯は対象外です。

#### ■申請方法

①対象の世帯主に確認書を郵送します。確認書には、令和2年の特別定額給付金申請時に登録した口座を印字しています。必要事項

を記入し、返送してください。振込先を変更する場合は、新しい口座を記入し、振込先や本人確認ができる書類を同封してください。

②対象となる見込みの人は、コールセンターに連絡し、申請書を取り寄せて、手続きしてください。

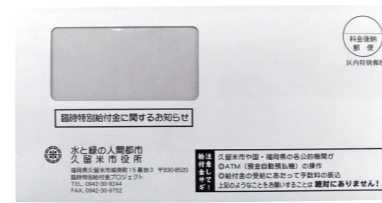
#### ■申込締切日

①確認書発送後3か月以内

②令和4年9月30日(金)

給付開始時期や窓口開設などは決まり次第、市ホームページなどでお知らせします。

久留米市臨時特別給付金コールセンター ☎0942・309244、FAX0942・309752、平日8時30分から17時15分まで



郵送される封筒。封筒には確認書と案内が同封されています

### 受付開始

## 不育症検査費用を助成します



2月1日から保険診療の対象とならない不育症の検査に要した費用の一部を助成します。ただし、入院費、食事代、交通費など直接検査に必要な費用は除きます。

■対象 2回以上の流産、死産の既往がある人で、申請日に久留米市内に住所を有する人。婚姻関係は問いません。年齢、所得制限なし

■検査 令和3年4月1日以降に実施した「流産

検体を用いた染色体検査」。ただし、先進医療の検査実施医療機関として届け出がある医療機関で実施したものに限り

■助成額 1回の検査につき5万円を上限

■支払方法 検査費をいったん負担していただいた後、申請により口座に振り込み

☎こども子育てサポートセンター

(☎0942・309731、FAX0942・309718)

市の講義を受けた学生にインタビュー

## 身近で大切な市民活動に気付く

市民活動と聞くと、ボランティア活動に参加するだけのイメージでした。講義を受け、実際に自分で課題から解決策まで考えるうちに、市民活動は地域に必要なと思うようになりました。私は、昨年の大雨災害を課題として、非常食を小学生に食べてもらう取り組みを発表しました。地域の課題

を見つけ、どう活動に結びつけるかを考えるのは難しかったです。ただ、課題と向き合って調べたり考えたりする中で、知らなかったことを知ることができて楽しかったです。難しいと感じた市民活動も、今は身近で大切だと感じています。今後は自分ができることを探して取り組みたいです。



久留米大学2年  
弟子丸優華さん